
想思想哀

芸熊

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

想思想哀

【Nコード】

N7321M

【作者名】

芸熊

【あらすじ】

ざっくりと思いつくまま書きました。

内容は薄いです…。

脳内補完でお願いします

SSってより…ポエムっぽいです。

貴方の声が、凄く好き。

優しい貴方の声。

私が貴方を怒らせた時も、最後に貴方はその優しい声で許してくれたね。

「ありがとう」

「どうしたの。何か有った」

「ううん、言いたくなっただ」

「そっか」

私は貴方を怒らせることばかりしてたね。

でも、貴方は許してくれる。

その優しい声に甘えていた。

私はわがままで、貴方を困らせた。

凄く、凄く、貴方が好き。

「好きだよ」

「うん。俺も好きだよ」

でも、貴方から好きとは言ってくれなかったね。

「ねえ、私のこと、好き」

「じゃなかったらこうして一緒に居ないよ」

どうしても、不安になってしまっただ。

貴方がとても好きだから。

「もう終りにしよう」

「え…」

「もう、続けられないよ。君は僕に依存して、僕も君に甘えてい
る。二人とも成長できないんだ」

「なんで…そんなこと言わないで」

「もう、だめなんだ」

目の前が急に暗くなった。

貴方が居ないと歩けない。

目の前に続いてた道が見えないよ。

貴方が照らしてくれていた道が見えなくなった。

「俺のこと好きでいてもいいよ。俺もお前のことが好きだから」

初めて貴方から好きと言ってくれた。

でもそれが優しくて痛い、別れの言葉だった。

貴方が狂おしいほど、涙が止まらないほど、ずっとずっと好きです。
なのに届かない想いは、哀しみに変わった。

「ありがとう」

「うん、ありがとう」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7321m/>

想思想哀

2010年10月13日15時56分発行